
2008年度 第6回 音環境運営委員会 議事録

記録:坂本

- A. 日 時 2009年3月16日(月) 17時30分~19時00分
- B. 場 所 建築学会会議室#301
- C. 出席者 赤尾伸一、安藤 啓、大鶴 徹、岸永伸二、坂本慎一、佐久間哲哉、田端 淳、濱田幸雄、平松友孝、安岡博人、吉久光一、吉村純一(敬称略)
- 欠席者 井上勝夫、岩瀬昭雄、河井康人、古賀貴士、佐藤史明、中澤真司、福地智子(敬称略)
- D. 提出資料
- No.6-0 2008年度 第5回音環境運営委員会議事録(案)(田端)
- No.6-1 2009年度 音環境運営委員会・小委員会予算について(大鶴)
- No.6-2 2009年4月 騒音・振動研究会(吉久)

E. 審議事項

1. 前回議事録確認(資料No.6-0)
- ・2009年度大会研究懇談会は3日目午後である。2日目午後の研究協議会は佐藤洋先生から翁長先生に変更の様様。(委員会後に翁長先生から土田先生に変更)
 - ・上記以外は承認された。
2. 環境工学本委員会(2009.3.16)報告(大鶴主査)
- ・ 学術推進委員会拡大幹事会(2/18)報告
 - ・ 直営刊行物の在庫の取り扱いについて 在庫が増えすぎて保管場所に困っているので、処分したい。については内規(案)を作成した。
 - ・ 大会梗概取り下げ申請について 都市計画分野で発表された、昨年度大会にて既発表の論文「超音波を用いた・・・」について、仮説が間違っていたとのことで取り下げたいとの申し出が12月にあった。記録から抹消する手続きが取られる。
 - ・ 2009年度大会 プログラム編成方針 1題あたり8分、発表時間6分、質疑はセッションでまとめて行う。質疑の時間は、論文の発表順にこだわらずに行うこと。
 - ・ 調査研究委員会の組織・活動のあり方 建築学会の総合化に今後取り組む。新たな方向性模索の一環として検討される。
 - ・ 提言「建築分野の地球温暖化対策ビジョン2050」(案)意見があれば今月中に事務局まで。
 - ・ 環境工学実験用教材、環境工学用教材の改訂について、状況報告があった。
 - ・ 研究協議会 高齢社会の環境設備 音環境からの発表者を翁長先生で調整中である。
 - ・ 研究懇談会 建築環境のシミュレーション技術と将来展望 音環境から大嶋先生が発表される。レジュメをメール審議しているとの報告があった。
 - ・ アカデミックスタンダード マトリクスを提出した運営委員会は、音環境・環境振動・水環境の3委員会と少数である。

審議事項

- ・ 2009年度大会 OS 音環境は6件申し込み・6件採用。
 - ・ 大会プロ編 4月28日13時~ 委員3/31締切。各小委員会から1名ずつ旅費のかからない人を推薦する。3月27日までに大鶴主査に報告のこと。同日、教材の委員会が開かれる。
 - ・ 各種委員会委員推薦 技術報告集委員会委員を音環境から古屋先生(九州共立大学)を推薦した。
 - ・ 総合論文誌編集委員会委員は倉渕先生(東京理科大)、災害委員会委員は赤林先生(新潟大)。
 - ・ 2009年6月19日(金)スピーチプライバシをとりまく現状と課題(建築会館会議室)が開催予定。
 - ・ 委員公募について 5月号掲載の場合は原稿締切が3月27日。
 - ・ 委員会の最後に、下記のように井上委員長から2年間の環境工学委員会活動の総括があった。
- [1]小委員会の自己評価システムについて 自己申告で評価をつけるようになっているが、50数委員会の中でCが1、Dが4委員会あった。その他90%はAかBであった。今後もこのシステムを使って小委員会の活性化に役立てたい。
- [2]アカスタの推進 4件のアカスタが実現した。

[3]大会細分類細々分類の見直しを行い、成果を得た。

[4]研究懇談会 2007年度に包括的なテーマで実施した。懇談会での議論が横断的なテーマにつながったことから、この企画は機能していると評価している。

[5]横断的なテーマ設定を推進すべく、特別研究委員会が立ち上がった。

- 選挙の結果 次期環境工学委員長 名古屋大学 久野覚先生が当選された。

3. 小委員会活動報告

固体音小委員会（平松主査）

- 2月20日、3月11日に開催した。3月19日のシンポジウムの執筆内容を議論し、3月11日は原稿読み合わせを行った。

集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（濱田主査）

- 2月9日に開催し、現行の赤本に関する検討、および表示尺度と生活実感の対応について検討した。3月26日の委員会で継続審議を行う。

建築音響測定法小委員会（赤尾主査）

- 2月10日に開催した。インピーダンス測定の留意点を3月19日のシンポジウムで発表予定である。その他、実騒音を用いた遮音測定について、大会で発表予定である。

室内音響小委員会（岸永主査）

- 2月6日に開催し、3月27日のシンポジウムの詳細を検討した。
- スピーチプライバシWG 各委員の研究をベースに検討を進める。情報漏洩に関する設計・評価の方法について検討する等、方向性を模索している。新たな委員が2名追加。公募も行う。
- 音響指標WG 次期は主査が交代する。

音響数値解析小委員会（佐久間主査）

- シンポジウムを2月27日に開催し、盛況（出席者68名）であった。書籍の出版委員会が立ち上がる。特別研究委員会が新たに立ち上がり、委員の公募を行う予定。小委員会としても公募を行う。

企画・広報WG（安藤主査）

- 3月2日に開催した。アカスタマトリクスを検討し、提出した。
- 関連して、アカスタ小委員会に安藤主査、平松次期音環境アカデミックスタンダードWG主査が出席したが、提出委員会が少なく、実のある審議にならなかった。次期小委員会は、井上先生が主査の予定。

4. 他学会の予定

建築音響研究会 4/24 明治大学駿河台キャンパス

騒音振動研究会 5/29 名城大学天白キャンパス、6/26 防衛施設周辺整備協会（駐健保会館）

5. その他

- 大鶴委員長より退任のご挨拶があった。
- 2009年度音環境運営委員会・小委員会予算について（資料No.6-1）
- 次年度運営委員会予算は7千円減、環境工学全体としても5%減である。
- 室内音響と数値解析から、刊行委員会が立ち上がる。主査と幹事メンバーを4月中旬に事務局に連絡すること。

6. 次回の予定

2008年度 音環境運営委員会予定		
第1回	2008.5.20(火)	実施
第2回	2008.7.25(金)	実施
第3回	2008.9.26(金)	実施
第4回	2008.11.27(木)	実施
第5回	2009.1.20(火)	実施
第6回	2009.3.16(月)	実施